

全酪連会報 ⑨

2019 SEP No.648

酪農とのかけはし／濱田浩平さん

第70年度(令和元年度) 通常総会開催される (後編)

第48回 全国酪農青年女性酪農発表大会②

監査室だより／改正農協法により、監事監査規程11年ぶりの全面改正、
そして、全中監査から会計監査人監査へ移行

日本酪農見て歩紀／佐藤牧場(北海道中川郡幕別町)

酪農トピックス／全酪連名古屋支所 主催
「知多牛肉牛部会 系統飼料知多牛枝肉研究会」を盛大に開催！(名古屋)ほか

酪政連活動報告



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会



▲ 酪友運送の皆さん

① 仕事の内容
はじめまして、酪友運送株式会社の濱田です。
私たちの仕事は、牛用飼料全般（配合飼料、単味飼料、輸入乾草）の配送部門と酪農家から鏡野町にあるクーラーステーションへの生乳の集乳部門、クーラーステーションから乳業メーカーへの転送業務部門の3部門があります。今回は飼料配送部門の仕事内容をメインにご紹介いたします。
飼料配送部門は、おかやま酪農業協同組合（以下「おからく」という。）津山SPに所在し、飼料配送

と津山SPの倉庫管理業務を行っています。倉庫管理業務についてですが、津山SPの酪農関連製品の出入庫管理を行っています。津山SPには1日に30〜40名の酪農家さんが来られて、酪農家さんのトラックに輸入乾草、袋物・TB飼料や酪農関連資材等の積み込みを行います。その際、酪農情報の共有や世間話をしながら積極的にコミュニケーションを図っています。配送業務だけでなく、これらも重要な業務だと感じています。

② 1日のタイムスケジュール

1日のスケジュールですが8時30分から17時までが業務時間とな

ります。配送部門は点呼および車輦点検を行ったあと、当日の業務予定の指示を行います。当日配送予定の伝票を見ながら飼料の積み込みを行います。8時30分から酪農家さんが引き取りに来られるため、そちらの積み込みも並行して行います。配送ルートですが、できるだけ効率の良い配送を心がけています。酪農家さんに協力してもらいながら、時には注文いただいた日にちより数日早く納品させてもらうこともあります。

自分の仕事と酪農とのかかわり

冒頭にも述べましたが、牛用飼料

酪農との かけはし



第21回 酪友運送株式会社

「酪農の友」として

濱田 浩平さん

所属組織: 酪友運送株式会社
代表取締役

濱田 浩平さんの 1日のタイムスケジュール

8:30 ▶	出勤 乗務員点呼、車輛点検、 1日の業務予定指示
8:40 ▶	トラックへ飼料の積込
9:00 ▶	リフトマン、運転手で 積込確認をして出発
11:30 ▶	午後便の積込
12:00 ▶	昼食・休憩
13:00 ▶	午後便出発
16:30 ▶	倉庫管理および事務処理 (倉庫の在庫確認、引き取り 伝票および配達伝票の照合) 車輛の終業点検、 乗務員点呼
17:00 ▶	退社

全般（配合飼料、単味飼料、輸入乾草）の配送、津山SPの倉庫管理業務、生乳の集送乳で酪農とかかわっています。どの仕事でもそうですが、プロ意識を持って業務に取り組んでいます。各酪農家さんの使用している飼料の銘柄はもちろん、使用量、納品場所を職員全員が把握していて、酪農家さんが安心して効率良く作業ができるように気配りは怠りません。酪農家さんのだいたいの使用量も把握していますので、配送時期に注文が来ないときは確認します。牛の状態が悪くて頭数が減ったのではないかと、自身の体調が優れず頭数を減らしたのではないかと、ついつい考えて心配してしまいます。注文忘れであったと分かったときはホッとします。

倉庫管理についてですが、入庫した製品の品質・状態に問題が無いか確認に努めています。カビや発熱が発生した際は、おからく職員、全酪連職員に連絡して都度協議しています。輸入乾草については、酪農家さんの感想・評価を聞きながら、コンテナごとの乾草の品質把握に努めています。

私たち関連会社は酪農業を営む上で欠かすことのできないものだと思います。配送業務を通じて酪農業に少しでも貢献できるように、新しいことにも挑戦していこうと思っています。



▲ バルク車への積込作業

仕事の魅力

飼料積込や配送時、集乳時の酪農家さんとのふれ合いが楽しみの一つです。酪農家さんも身近な話を楽しそうにしてくれているのを見ると同じ気持ちのような気がします。また、会話のなかでキャンペーンや酪農経営に関する有益な情報は1つでも多く提供することを心がけています。

酪農とは少し離れますが、私たちの職員はみんな「くるま」が好きで、運転も上手です。狭い道路や敷地内でも大きなトラックをピタリ横付けします。

全国の酪農家に一言！

私たちの配送範囲は岡山県北部に限られていますが、配送業務は酪農業に携わる仕事100%で運営しています。近年は離農が多くシビアな情勢ではありますが、これからも“酪農の友”として酪農家さんに信頼され、皆さまに愛される会社を目指して、微力ながら酪農業界の発展に向けて努力していきたいと思っています。

酪農業界の発展に向けて共に頑張りましょう。



▲ 配送車への積込作業



▲ 倉庫内作業

第70年度(令和元年度)

通常総会開催される

後編

本会は、7月25日(木)、TKPガーデンシティ品川(東京都港区高輪)において、第70年度通常総会を開催し、平成30年度の事業実績、剰余金処分案、令和元年度の事業計画案、定款の一部変更等の承認を得るとともに、役員の補選を諮った。

午後1時00分、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った砂金甚太郎代表理事会長は、会員並びに来賓各位の参集に対し、謝意を述べた。



▲ 砂金会長

続いて、酪農を取り巻く国内外の情勢について

「底堅い内需に支えられ、緩やかな回復傾向が持続している一方、世界経済については、中国経済の減

速や欧州政治の混乱等により、回復の流れが鈍化している状況の中、米中の貿易問題が長期化しており、双方が輸入品に重い関税を掛け合う事態から一年が経過し、日本経済にまで影響が及んでいる。こうした経済情勢の中、我が国の酪農については、ここ数年、毎年数百戸の酪農家が経営を断念する事態になっている。メス子牛の出生頭数が増加に転じるなど、明るい材料もあるが、今後なお予断を許さない状況が続くものと思われる。

また、昨年には改正畜安法が施行され、これまで築き上げてきた安定的な生乳共販体制を揺るがすような、生乳流通の新たな流れが一部で動き始めており、今後の影響について注視していく必要があると考えている。

更に、TPP11や日EU EPA、あるいはTPPを離脱した米国との交渉などといった貿易問題も、酪農経営の将来展望に、少なからず影を落としている。

しかしながら、先日、全酪連と、全国酪農青年女性会議が主催する酪農発表大会に参加した際に、こ



▲ 朝日議長

のような厳しい環境下にあっても、多くの参加者の方々が、口々に酪農の重要性を説き、酪農の明るい未来を固く信じておられるのを目の当たりにし、全酪連はこうした酪農の明るい未来に期待している方々や、後継者の方々が意欲や希望をもって酪農経営を持続・継承できるような環境作りに貢献していかねばならないと感じた。」とし、続いて、本会の事業計画

に関して次のように述べた。

「今年度は、全酪連にとって、第十一次中期事業計画の2年目にあたり、搾乳後継牛の確保や、酪農家戸数維持への取り組みなどを基本施策の柱とし、引き続き酪農生産基盤の維持・拡大のため、会員・酪農家の期待と信頼に応えつつ、役員一丸となって事業に取り組むこととしている。」

そして最後に、会員・酪農家の皆様へ日頃の感謝を述べるとともに、引き続きのご支援をお願いし、開会の挨拶とした。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部・渡邊毅部長、農林中央金庫・岩曾聡常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人Jミルク、一般社団法人全国酪農協会等関係団体から多数のご臨席をいただいた。

農林水産省生産局の渡邊畜産部長は、来賓挨拶の冒頭でご列席の皆様への日頃の感謝に加え、全酪連に対して

「昭和25年の設立以来、全国連として生乳の需給調整や生産基盤の

強化及び、品質・流通管理に重要な役割を果たしてこられた。皆様方のご尽力に対して深く敬意を表したい。」と述べられた。



▲ 渡邊部長

続けて最近の酪農をめぐる情勢については、

「平成30年度の生乳生産量が約728万tであり、北海道においては前年度に比べて1・2%増となったが、都府県においては残念

ながら前年度に対し、1・6%減となった。しかしながら、先日発表された平成31年2月1日現在の乳

用牛の飼養頭数を見ると、2歳未満の乳用牛頭数は前年度比2・4%増の43万1千百頭となったが、都府県においては対前年度比2・9%増と北海道以上の動きを示しており、後継牛の確保が着実に進んでいるとみている。今後は若齢牛をしっかりと育てるために、全酪連の預託事業なども活用していただき、生乳生産の回復に繋げていただくことが重要であると考えている。

農水省としては畜産クラスター事業を始めとする各種支援を通じて、生乳生産基盤の強化を推進していきたいと考えている。また、加工原料乳生産者補給金制度においては、生乳取引のあり方について一部で不安・不満の声があることは承知している。農水省としては、年度途中での一方的な出荷先の変更などの良いところ取りが起きないように、新制度の運用について生産現場への周知を図っていききたい。全酪連においては、今後とも生乳流通の中核を担い、生産者のためにその

機能を発揮していただくことを期待している。」とした。

続けて国際情勢については次のように述べられた。

「日米の貿易交渉が行われており、昨年9月に両首脳の間で過去の経済連携協定で約束した市場アクセスの譲許内容が最大限であるという共同声明が発表された。この共同声明を大前提に政府一体となって最大限の努力をしていく考えである。」

さらに、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」（以下「酪肉近」という）について

「今の酪肉近が定められてから5年近くが経過しており、本年4月より生産者などからヒアリングを行って、食料・農業・農村政策審議会において活発な議論を頂いている。今後は夏までに生乳の流通関係者からもヒアリングなどを実施し、その後審議会に諮問していく予定である。生産者を始めとする関係者の皆様は将来に渡る希望を持って酪農や乳製品の製造に取り組んでいただけるような内容となるよう議論を深めていきたい。」と述べられた。

最後に

「全酪連においては色々な課題のある昨今の情勢の中でも、今後とも引き続き農業者の方々の先頭に立って酪農の発展に貢献していただくことを期待申し上げます。また、本日ご出席の皆様方のご健康とご健勝を祈念し挨拶とします。」と締めくくった。

また、農林中央金庫の岩曾常務執行役員は、挨拶に先立ち、

「二昨年の九州北部豪雨、昨年の西日本豪雨に続き、この度の西日本・九州地区の豪雨と3年連続同じ時期に大変な災害があった。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げる。農林中央金庫としても復旧・復興に向けて、でき得る限りの支援をしたい。」とお見舞いの言葉を述べられた。

そして、総会開催へのお祝いの言葉とともに、農林中央金庫の日ごろの業務への理解・協力にお礼の言葉を述べられた後、酪農を取り巻く環境について、

「昨年9月に発生した北海道胆振東部地震の影響もあり、平成30年度の国内全体の生乳生産量は前年

比0・1%減と、3年連続で前年を下回っている。この4月より乳価が引き上げられ、乳牛飼養頭数も増加に転じるなど好転の兆しが見られるものの、都府県における厳しい状況は依然続いていると認識している。



▲ 岩曾常務

酪農業界として都府県の酪農生産基盤の維持・強化が重要課題である中、全酪連は福島県及び熊本県での

若齢牛預託施設の展開、北海道での販売預託事業の拡充等を通じて都府県の後継牛増加に資する取り組みを積極的に進めている。

また、経営数値面においても、中期事業計画の初年度である平成30年度は計画を上回る業績を上げたと言っている。これも会員役職員のご努力、砂金会長のリーダーシップの賜物であり、深く敬意を表したい。農林中央金庫としても、系統金融機関として酪農協系統の振興に向けた金融対応はもとより、酪農関係団体の経営改善の取り組み支援など、全面的に全酪連の取り組みを支援していく所存である。

最後に、全酪連並びに会員の皆様のみますすのご発展と本日ご臨席の皆様のご健勝を記念し、挨拶とさせていただきます。」と述べられた。

この後、朝日修氏（岐阜県酪農農業協同組合連合会 代表理事会長）を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認された。

議事終了後、本総会をもって退任される小湊副会長理事が閉会の挨拶の中で、昨今の酪農を取り巻



▲ 小湊副会長

く国内外の情勢について触れられ、「本総会で承認された基本方針のなかでも特に、酪農経営環境の安定化と生産性向上、生産物販売強化の3つが酪農家の所得に直結する課題であり、これらの課題を解決していくために、役職員一丸となつて邁進していくことを、退任する身ではあるが、皆様にお約束したい。」と述べて、第70年度通常総会は終了した。

第48回全国酪農青年女性 酪農発表大会②

酪農意見・体験発表の部

佐藤 純子さん(東北会議)が最優秀賞を受賞!!

先月号に続き今月号では7月11日(木)〜12日(金)鹿児島県鹿児島市にて開催された第48回全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農意見・体験発表の部の審査講評を中心にご紹介します。

酪農意見・体験発表の部 審査講評

(公財)日本乳業技術協会 代表理事

栗本 まさ子 審査委員長



それでは、審査員を代表して審査講評を述べさせていただきます。

この審査委員長という大役を「酪農

家にもうこれ以上減らないでいただきたい!」という思いでお引き受けたのが2年前、その後も毎年700ずつ、1,400もの酪農家さんがおやめになつてとても残念です。そして、このことを残念に思い、何とかこれ以上減らないでほしい、頑張っていたきたいという思いは都会に住む人たちにも少しづつ拡がっている気が致します。皆さんが長年続けてこられた酪農教育ファームや理解醸成活動の成果が大きいと思いますが、今、乳牛や酪農家の皆さんがこれまでになく注目されているように感じており、みなさんからどんどん発信するチャンスであると言えるところです。そのような中で、昨日、6名の発表を伺いました。

皆さん、それぞれ置かれた環境、条件の中で、たくましい努力や想像力で幾多の困難を乗り越え、今日の経営を築き上げ、誇りをもって酪農の魅力を発信されました。今、さまざまな事情や不安を抱えながら酪農を続けていらっしゃる全国の皆さんに。元氣を出していただきたく、勇気をもって前に進んでいただき、あるいは踏みとどまっていたただくためのメッセージやヒントが沢山詰まった、素晴らしい感動的な発表ばかりでありました。

それでは6名の方々の発表を一緒に振り返りたいと思います。

私が鬼になったワケ

九州酪農青年女性会議

横井 美鈴さん



横井さんは沖縄独自の飼養体系から生産される乳成分の特徴を生かし、改善努力を重ねて低脂肪、高乳糖で安定した高い乳質を実現。男性にも好んでもらえる「くど過ぎないコク、糖類

を多用しなくても感じる甘さ」の理想の味のソフトクリームの開発・販売を成功させます。地元企業とのコラボも実現し、塩ソフト、みソフト、リキュールソフトをはじめとする共同事業を広げ、移動販売車やイベント出展で、地域貢献を見事に実践されています。さらに、観光協会、雇用創造推進協議会等と連携し、町おこしのムーブメントに乗って、新しい商品開発、農業体験ツアー等更なる取り組みを進めていらっしゃるようです。

管内の酪農家さんは57戸に減ってしまったとのこと。でも外から横井さんが移住していらしたことが本当に良かった。こんなにも地域のことで、酪農のことを一生懸命に考えてくださる方がいらつしやることは、地域だけでなく日本の酪農の為にとても大きな力になると思うからです。私たち日本人が決して忘れてはいけない沖縄戦、1人でも多くの方が南部戦跡国定公園を訪れ、横井さんのソフトクリームの味と共に酪農家さんの存在の大切さもしっかりと期央にとどめていただくことを祈っています。もう鬼にはならないで、どうかこれからも取り組みをお続けください。

夢見た先に

西日本酪農青年女性会議
岸本 美加さん

非農家出身の岸本さんは「自然と動物に触れあえる仕事がしたい」との夢を、ご主人と酪農をなさることで実現されました。結婚当時40頭だった経営規模は7倍の280頭となり経営発表の部にふさわしいような経営内容で、後継者は2人も息子さんがおられ、娘さんのご活躍も楽しみです。

牛群は良く改良された自家産牛、餌も自家配合、TMRを給与。海外研修等にも積極的に参加され、得られた知見を活かして経営の発展に合わせて新しい施設、機器を導入し、足腰の強い経営を確立されました。

従業員を雇用していく中で法人化にも自ら取り組み、わかば会、金時太鼓など地域活動への参加、酪農青年女性部で中心的活动、乳和食の普及、研修生

の受け入れなど、何もかもおやりになったやりつくされた、すごい発表でした。

苦しいことも多かったけどそれ以上に楽しい牛飼いの人生と仰る「夢の第2章」で何をなさるのかとても楽しみです。いつまでも、素晴らしいロールモデルとして酪農の楽しさを発信し続けていただくようお願いします。

stay dream (夢を持ち
続けて)〜独自産業化への道〜中部酪農青年女性会議
北村 克己さん

高校時代のブラジル実習、その後のアメリカ留学を通して、酪農に誇りを持つ人々に触れ、「地域の人たちに支持される経営、酪農の魅力や楽しさを伝えられる経営の展開」を決意し北村牧場の後継者となります。いったん挫折した紆余曲折を経て、受精卵採卵用の繁殖和牛の飼育、耕畜連携、共同経営「酪」の創業、6次産業から独自産業化を実現、大都市名古屋にミルクス

開店等、次々に夢を叶えられます。優れた人材が集まり、更に育ちやすそうな環境づくり、京セラ稲盛さん提唱の「アメーバ経営」等、幅広く他産業の先駆者のやり方も取り入れ、これらを考える酪農家さんのヒントになるようなことを幅広く実践されておられます。牛の魅力、酪農の魅力を伝える、都会に住む人たちに酪農の価値を伝えたい、日本の酪農を「価値、感動、感謝」の3K産業にし、発信していく世界に負けない未来のワクワクする酪農を一緒に作ろう！と仰る北村さんには、これからの酪農のフロントランナーとしてみんなを引っ張っていただきたいと思っています。

牛にも人にも優しい育成牛舎
嫁造っちゃいました！北海道酪農青年女性会議
遠藤 裕子さん

酪農家に生まれ酪農の中で育った遠藤さんは、酪農家に嫁がれました。ご主

人の体調不良もあり、大変な困難を子供さんたちに助けられて乗り越え、経営主として育成事業に取組まれます。義理のお父様の猛反対もありましたが、農協普及所等の皆さん、特に大学の教授の力を得ることによって「牛にも人にも優しい育成牛舎」を見事に実現されました。牛たちをより快適で幸せな環境で育てたい、牛を預けてくださる本州の酪農家さんに安心して頂けるようにと、アニマルウェルフェア認証にも挑戦されるなど、預ける方の立場に立つたきめ細かい管理をなさる育成のプロとして本州の酪農家さんにとってよいお手本となりました。

大学を卒業し、外での経験も積んで戻られた長男にまもなく経営移譲されるとの事です。これまでのご苦労や素晴らしい行動力に審査員一同心から敬意を表したいと思います。

これからは、もっと広い視野を求めて外へ出て、仲間を作ることの大切さなどを女性だけでなく男性の皆さんにも伝えていただきたいです。遠藤さんのお話はあのほのぼのとした牛や牧場の魅力がとてもよく伝わるイラストと共に、みんなを、特に酪農女性を元気にする力がとても強いと思います。ますますあちこちでお話しいただきますようお願い致します。

地域の灯台目指して

「一家和楽の道」酪農／宿命を使命に

東北酪農青年女性会議
佐藤 純子さん



埼玉の非農家生まれ、農業とも乳牛とも無縁だった佐藤さんは、お互いに「目ぼれたご主人のもと」「まぼろばの里」へ嫁がれます。はじめは稲作でしたが、やがて年中無休の酪農に従事し、その大変さに疲れ果てていたところ、総合農協から山形県酪農協へ転入し、仲間からたくさんの刺激を受けて本格的に酪農に打ち込むことができるようになります。ご自身で経営全般の勉強、トラクターに乗るなど酪農技術を高める事にも積極的に取り組まれ、ご主人が人工授精師免許を取得され優秀な後継牛づくりなどがどんどん広がりそうです。

また、ご夫婦そろって地域や酪農協の重責を担い、活動を拡大され、今後さらに酪農教育ファームや6次産業化等に取り組み、地域貢献の幅を広げていくお考えです。

ご主人のご兄弟、ご自身のご病気で、はかり知れない大変な辛い思いをされたことと思いますが、家族がバラバラにならないように酪農を選択され、全員で支え合う優しいご家族はこれら乗り越え、農業の大切さ、素晴らしさを自負される母、純子さんのもとで、お子さんは農業大好き少年に成長。新しい家族経営のモデルのような盤石な家庭を築いておられます。そして悩みを抱える方たちに、勇気や希望を与えてくださる発表でした。

『しのぶの酪農30年』 「たくさんの酪友と、ときどき夫」

関東甲信越酪農青年女性会議
木暮 しのぶさん



サラリーマン家庭に生まれた木暮さんは、百貨店勤務を経て木暮牧場に嫁ぎ、酪農の担い手となります。ご家族のけがやお子さんの病気など、その時々
の困難を乗り越えてしっかりと牧場を支えます。そしてご家族が一緒の家で

暮らせることをとても幸せと仰います。サラリーマンのように転勤がなく、家族一緒に大切な時間を共有して暮らせることは酪農の大きな魅力です。

さて、木暮さんは、持ち前の積極性、明るさから、PTAの役員、地産地消を広める地域活動、復興支援など、活躍の範囲を広げられています。10年前に酪農協の女性部部長に就任され、酪農青年女性会議の活動に出会ったことで私は変わったと仰います。いろいろな人と交流し、刺激し合える仲間ができ、愚痴を言い、アドバイスしあえる場、仲間の大切さ、チャレンジすること、口に出してみるこの大切さなどを知ったと、酪農女の活動がいかに有意義だったか力強く語られました。息子さんと一緒に牧場をなさって夢がかなっても、その後もずっと、全国の酪友を見守り続けてくださるに違いなく、そんな気が致します。

.....
以上審査講評を述べさせていただきます。
ました。

さて、この中から最優秀賞お一人を選ぶということ、皆さんもとても難しいと感じだと思えます。本当に難しかったのですが、慎重審議の結果、審査基準の「その意見・体験が酪農の振興に果たす役割について特に考慮する」

を尊重して、日本の酪農は今、「都府県の家族酪農経営の持続的な展開が喫緊の課題」とされていますので、もっともその役割を期待したい、はかり知れない苦難を乗り越えこれからの展開がとも期待される家族酪農経営、「まぼろばの里」で地域の灯台にすでになつておられる佐藤さんご一家、佐藤純子さんを最優秀賞に決定いたしました。

また、国際環境が新たな段階を迎えている中、すでにいくつもの夢をかなえた実績の上にさらに夢を持ち続け、「世界に負けない未来のワクワクする酪農経営を一緒に作りましょう」と元気いっぱいに引つ張ってくれる、北村克己さんを審査委員長特別賞に選出いたしました。

6名の発表者の皆様、そのままだんどん酪農の魅力を発信し続けてください。本当に素晴らしい発表でした。審査員一同、発表者の皆様、関係者の皆様に心からの敬意を表し、深謝して審査講評と致します。

来年は、7月16日(木)～17日(金)に宮城県仙台市「江陽グランドホテル」にて開催予定となっております。皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

改正農協法により、監事監査規程

11年ぶりの全面改正、

そして、全中監査から会計監査人監査 へ移行

監査室は、主に内部監査及び全中監査に関する業務を行っています。監査室の事務局も兼務しています。そこで、今回は、近年の監事を取巻く環境の変化について弊会を例に報告いたします。会員の皆様におかれましては、新たに監事に就任された方もおられると思いますので、参考になれば幸いです。

1 監事監査規程の全面改正 (11年ぶりの改正)

弊会は改正農業協同組合法（平成27年9月4日公布、平成28年4月1日施行）に基づき、2019年9月末までに会計監査人を選任し、会社法監査に準拠した会計監査を受ける必要があります。この会計監査人による監査制度は、会社法監査を準用しており、従来のJA全国監査機構による監査と多くの異なる点があります。また、会計監査人による監査制度の導入に伴い、監事監査の実効性確保が今まで以上に求められるようになります。そこで、これらのことに対応するべく、

監事監査規程の全面改正を行いました（平成30年7月26日開催、第69年度総会承認済み）。なお、当法改正により会計監査人監査が義務付けられている組合及び連合会は、信用事業における事業年度開始時貯金等残高200億円以上の農協、又は負債200億円以上の連合会です。

2 全面改正内容の骨子

① 監事の職責と心構え

「監事の職責」及び「監事の心構え」を新たに定め、監事監査業務の姿勢を示した。

② 監事候補者の選定と選任手続等

監事候補者の選定や監事の選任に対する監事の関与を新たに定めた。

③ 監事の報酬額の決定

弊会監事報酬額の決定は、定款及び監事会規則にて定められているが、当規程においても法定事項として重複して定めることとなった。

④ 監事への報告体制

『内部通報システム』に対する監視を監事職務として新たに定めた。

⑤ 監事の業務監査項目（事項）の独立

現行のJA監事監査基準（監事監査規

程例) 及び現行の当規程において、一つの条項にて定めている「監査項目」を、以下のとおり独立した条項にて新たに定めた。

- (1) 理事の職務執行状況の監査
- (2) 理事会の運営状況の監査
- (3) 子会社等に関する監査
- (4) 利益相反取引等の監査
- (5) 不祥事対応及び第三者委員会に関する対応
- (6) 業務報告等の監査
- (7) 会計方針及び会計処理に関する状況

⑥ 内部統制システムに係る監査

『内部統制システム』に対する監視を監事職務として新たに定めた。

⑦ 会計監査人監査の選任等

新たに取り組む会計監査人の選任等に関する職務を「会計監査人の選任等の手続」及び「会計監査人の報酬等の同意手続」にて新たに定めた。

⑧ 理事会への出席・意見陳述

理事会への出席は定款にて定められているが、当規程において法定事項としての出席及び意見陳述並びに議事録への署名押印を行うこと等を定めた。

⑨ 監査の方法

- (1) 事業及び財産の状況に関して適宜調査することを定めた。

- (2) 会計監査人と緊密な連携を保ち、積極的な意見・情報交換が行える体制を整備し、その体制から得た情報等に適切に対応することを定めた。

⑩ 代表訴訟への対応

『会員代表訴訟』に関する対応として新たに定めた。

⑪ 監査報告

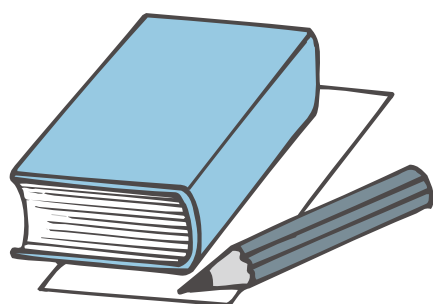
監査報告を正確かつ明瞭に作成し、理事会、会計監査人及び総会に報告することを定めた。

⑫ 電子公告への対応

電子公告による開示に関する監事の対応を新たに定めた。

⑬ 当規程の適用時期

附則にて、当規程の適用時期を定めた。



3

監事監査規程の一部変更及び
会計監査人の選任(令和元年7
月25日開催、第70年度総会承認済み)

監事監査規程の改廃は、従前の総会承認事項から監事の協議による決定に基づく理事会報告事項に変更となり、監事の知見向上時や監事監査に関する体制の増強時等、機を捉えて行えるようにするための所要の変更を行いました。また、会計監査人を選任しました。

4

おわりに

最後に、新しく監事に就任された皆様に対して改めて申し上げます。

監事の職務は、「**理事の職務執行を監視すること**」です。監事は、理事会の構成員ではありませんが、理事会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べなければなりません。また、監事は任務懈怠によって生じた損害を組合に対して連帯して賠償する責任を負います。組合に対する監事責任の消滅時効期間は10年です。

このように監事の責任は今まで以上に重大となっていますので、組合に保管されている監査手帳を是非とも一読することをお勧めいたします。

日本酪農 見と歩 紀

No. 316

佐藤牧場
北海道中川郡幕別町

日本語、酪農1年生 からの道



▲ 佐藤さんご一家(左から敏博さん、ひろのり君、真理さん、りかさん)

この度訪問させていただいたのは帯広市から南に約50km、十勝南部に位置する幕別町忠類の佐藤敏博牧場です。所属する忠類農業協同組合(蛭原一治代表理事組合長)は酪農家戸数52戸、年間出荷乳量は58,510t(いずれも平成30年度末時点)となっています。当牧場は、経営主の敏博さんと奥様の真理さんで搾乳牛75頭、育成牛50頭を飼養しています。牛舎はフリーストールで2014年に搾乳ロボットを1台、2017年に哺乳ロボットを1台導入し、夫婦2人でもできる無理のない経営を続けています。

今回主にお話しを伺ったのは奥様の

真理さんです。真理さんは中国黒竜江省のご出身で、2008年に敏博さんとの結婚を機に来日されました。当時の佐藤牧場は40頭のつなぎ牛舎で年間出荷乳量は250tほどでした。結婚当初、敏博さんとお父様が

すべての作業を行っていましたが、高齢で腰の具合が悪いお父様を心配した真理さんが給餌作業などを手伝い始めたのが酪農の第二步でした。その後、出産を経て本格的に2人での作



▲▶ 2014年に稼働したロボット牛舎、子どもたちが後継者となれば増築できる



北海道中川郡幕別町

業が始まりましたが、最初は大きな牛と牛の間にいらなくてはならない搾乳が怖くて、搾乳の時間になると泣いていたこともあったそうです。

本がお手本、基本に忠実に

来日当時、真理さんは日本語を話せませんでした。家族が温かく見守る中ドラマの字幕や手話ニュースなどを観ながら勉強し、3年目には普通免許を取得するほど上達しました。日本語の読み書きができるようになった後に、酪農について真理さんが最初に取り組んだのは、飼養管理の基礎や酪農専門用語の勉強です。農協や普及センターでもらった資料や本を読み、自らの経営と照らし合わせ、飼養管理方法を少しずつ覚えていきました。まずは牛の番号を覚えることから始め、本に書いてある通りに覚えた牛の繁殖カレンダーをつけて13〜14か月で人工授精をする、

しかし、何故か小さな子牛が生まれてきてしまう…。それでは小さい牛を大きく育てるにはどうするかを考え、生乳から代用乳へ切り替え、スターターも給与してみる。そして、次は丈夫な子牛を産むために移行期の管理をどうするかを考え、乾乳牛を前期

と後期の2群管理にする。このようにして問題点をひとつずつ改善し、飼養頭数が少しずつ増えていきました。敏博さんも何事にも勉強熱心な真理さんを応援し、牧場作業だけでなく組勘や計画書の作成など、真理さんの興味がある仕事を任せました。このときに繁殖や健康管理の改善を目的として、牛群検定に加入しました。

現状に余力が出てくると、もう少し搾って収入を増やしたいと考え始めます。当初は牛舎を増築して入替搾乳を考えていましたが、夫婦2人での増頭は労働時間・体力面でハードになることから搾乳ロボットという選択肢も視野に入れました。しかし、当時は利用できる補助事業に巡り合うことができず、全額自己資金となることから敏博さんは躊躇したそうです。そんな敏博さんが投資に踏み切ったきっかけは、TMRセンターへ加入したことでした。

TMRセンターの設立が投資を後押し

佐藤牧場は2013年、農事組合法人 青雲TMRセンター（代表 桑原俊明氏）設立時に構成員となりました。近隣農家9戸による同セン



▲ 搾乳及び哺乳ロボット
故障など拘束される一面もあるが、導入して良かったと語る

ターは、構成員が昔から収穫作業と一緒にやってきた仲間であることや、地域から信頼されている元普及員の方が当センターの相談役となってくれていることで、設立当初から円滑な運営が続いているそうです。

佐藤牧場が規模拡大を考え始めたのはちょうどTMRセンター構想が持ち上がった時でした。今までと全く違う管理方法を取り入れるにあたり、飼料設計から混合・配送作業まで全面的に任せられるセンターの設立は大きな後押しとなりました。「完全委託のメリットはすごく大きい。すべて自分たちで作業を行っていたのでは、とても手が回らなかった

たと思う。」と敏博さん。当センターの稼働と、真理さんのやる気に押されて敏博さんは搾乳ロボットの導入を決意。牛も初めて外部から40頭導入し、2014年11月にロボット牛舎が稼働を始めました。稼働後半年ほどは順応せず、機械トラブルや-20℃にもなる冬の凍結に苦労されたそうですが、「大変なことを大変でなくなるように」ご夫婦でひとつずつ解決していきました。結果的に搾乳ロボットを導入した成果が上がり、繁殖成績や個体能力が向上したことで、増頭前と同じ労働力で「頭数は2倍、乳量が3倍」にまで生産を上げることができました。気がか

りだった償還についても、導入後に個体と乳価が想定外に値上がりしたことから計画よりも順調に進んでいるとのことでした。

クラスター事業を利用して次の投資へ、より良い経営を目指して

搾乳ロボットの稼働が落ち着き生産を上げてくると、真理さんにとって次の課題は子牛の哺乳作業でした。以前は給湯室と子牛牛舎まで距離があったため、冬場になると代用乳の温度管理が難しく、また凍った雪で滑ってお湯バケツを載せた台車が転倒するなど、苦労が絶えなかったからです。早速、真理さんは普及センター主催の南十勝アグリスクー

ルを受講、実際に本会齋藤研究開発顧問にも現場を見てもらいながら哺育・育成管理についてアドバイスを受けました。その結果、手間もかからず温度、濃度ともに正確な哺乳ロボットが目に残り、頭数と設置費用を考え足踏みしていたところに畜産クラスター事業が追い風となつて、すぐに設置を決めました。設置と同時に、哺乳ロボットを最大効率で利用できる代用乳について検討した結果、本会との取引を始めていただきました。現在は本会強化哺育を実践していただき、子牛の成長にも満足しているとのことでした。

搾乳、哺乳作業が機械化された後は、省力化で生まれた時間とロボッ

トから抽出される様々なデータを活かし、ご夫婦でさらなる研究・改良に努めています。初産分娩月齢は25カ月未満、搾乳日数は185日前後をキープするなど繁殖を最も重視すると同時に、初産のときから空胎日数を延ばして4産を目標に産次数の向上を図っています。できるだけ自然発情を待つことも心掛け、その結果現在の初産牛の比率はおよそ30%と低く牛に負担をかけず長持ちさせることができていると、真理さんは家畜人工授精師の資格も取得しており、「授精もやってみたい！」とさらに先を見つめていました。

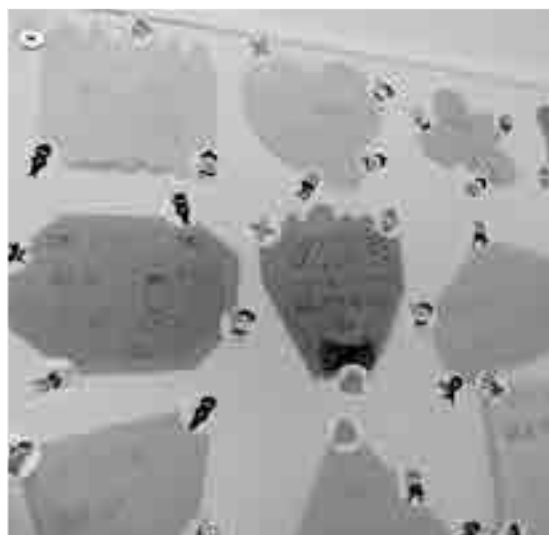
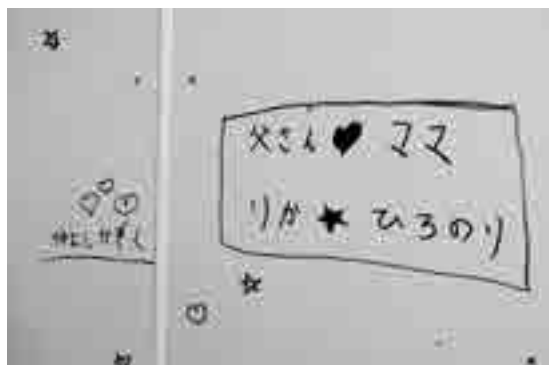
2人で無理なく、楽しく！

ご夫婦で楽しそうにお仕事の話をするので「休みはとらないのですか？」と尋ねると、今年初めて2泊3日で東京に家族旅行をしたよ、とのことでした。普段は休みを取ることはあまりないそうですが、仲良く仕事を楽しんでいるご両親を見て、子どもたちも酪農を理解し、遅くなる日には家事を分担するなど協力してくれるそうです。

それでも日中の作業に加えて搾乳ロボットに入れることのできない牛

たちの朝晩の搾乳は、家族で過ごす時間を減らしてしまいます。これからも繁殖を順調に回す努力をし、借入金を早期に返済する。その後は搾乳ロボットだけで搾乳が完結する規模にして、もっと子どもたちの時間を増やしたい、というのが真理さんの今の目標です。

「楽に楽しく便利にできるように考えて、普通に仕事してただけだよ。」と語る真理さんは、良いと思っただけでもすぐ試してみたいのだそうです。それに対して旦那さんは9割「いいよ、やってごらん」とやらせてくれますが、残りの1割は、「ちよつと待つて」とブレーキをかけてくれるのだとか。「それがあるから安心して何でもやれる(笑)」と敏博さんをとて信頼している様子が受け取れました。基本に忠実に丁寧に取り組むこと、現状を把握すること、これらの積み重ねが酪農に限らず大きな成長へつながることを教えていただきました。勉強家で努力家の奥様と懐の深い旦那様、ご夫婦二人三脚の佐藤牧場が今後ますますご発展されますよう祈念致します。この度は大変お忙しいところ、誠にありがとうございました。



▲ 事務所の壁より、可愛い落書きと、「離乳おめでとう！」メッセージカード

名古屋
支所発

全酪連名古屋支所 主催 「知多牛肉牛部会 系統飼料知多牛枝肉研究会」 を盛大に開催！

名古屋支所主催の「系統飼料知多牛枝肉研究会」が、8月2日(金)に大阪市中央卸売市場南港市場（大阪市住之江区南港）で盛大に開催されました。

それに先立ち8月1日(木)地元大阪の堺市畜産農業協同組合（小西亨代表理事組合長 大阪府堺市）の糞尿処理施設とトンネル換気を有した牧場の視察をさせて頂きました。

堺酪農団地は堺市南部の丘陵地帯に位置し泉北ニュータウンに隣接した都市近郊酪農地帯です。処理施設は大規模な堆肥センターと尿処理装置を設置し牛糞処理は一日約50t、牛尿処理は1日約10tを処理する能力を持っています。また臭気対策に対しても非常に力を入れており周辺住民への配慮も行われていました。

さて、今回の研究会は令和元号の最初の研究会となります。知多半島の酪農の特徴である乳肉複合経営をサポートできるよう、名古屋支所として肥育飼料の開発の歴史と重なって一緒に取り組んで来ました。

今回出品した頭数は全部で34頭。交雑種牝11頭、交雑種去勢18頭、和牛牝1頭、和牛去勢4頭でした。

交雑種全体の結果は平均枝肉重量が牝520.5kg、去勢が528.7kgでkg単価は牝が1,556円、去勢が1,580円でした。

今回の研究会の最優秀賞を制したのは交雑種去勢25ヶ月齢「美照福」75号でした。枝肉重量は578.0kg、格付B4、ロース芯面積66cm²、バラの厚さ8.6cm、BMS（脂肪交雑：赤身の肉にどれだけサシ（霜降り）がはいっているのか）No.5、BCS（肉色及び光沢）No.3の成績を収めました。kg単価は1,845円でした。

表彰式では知多牛肉牛部会、愛知県酪農協尾張支所、大阪市食肉市場株式会社、全酪連名古屋支所より褒賞授与が行われ無事研究会の幕を閉じました。（T.K）

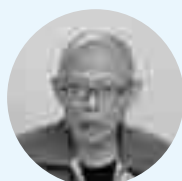


▲ 最優秀賞75号



▲ 最優秀賞 枝肉

		頭数	ロース芯	バラ	BMS	BCS	枝肉重量	単価	枝肉金額
平均	和牛牝	1	57.0	6.7	7.0	4.0	432.6	2,068	894,616
	和牛去勢	4	56.8	7.1	6.5	3.3	518.3	2,242	1,162,087
	交雑種牝	11	53.4	7.1	3.4	4.0	520.5	1,556	810,028
	交雑種去勢	18	51.1	6.9	3.4	3.6	528.7	1,580	835,225

◀ 大阪食肉市場
寺島部長より
来賓挨拶◀ 名古屋支所
田中支所長より
開会挨拶◀ 堺市畜産農協
寺本参事
施設概要について
説明を頂きました。

▲ 報奨授与式



▲ 知多牛系統利用研究会



▲ 研究会風景



▲ 牛尿処理施設



▲ 堆肥センター

知多牛に関する
お問い合わせは

▶ <http://chitagyu.co.jp/>

愛知県酪農農業協同組合・尾張支所内 知多牛肉牛部会

〒475-0914 愛知県半田市土井山町 2-83

電話：0569-23-4177（受付時間 平日 9:00-12:00 13:00-17:00） FAX：0569-23-4182

札幌
支所発初妊牛資源は増加傾向
「令和元年度 畜産主任者会議」

8月2日(金)本会札幌支所主催、「令和元年度 北海道・都府県畜産主任者会議」を開催し、道内と都府県の乳牛購買の担当者他 75 名にご出席いただきました。今年の基調講演では北海道文化放送のお天気キャスター菅井貴子氏を迎え、天気予報の見方から天候デリバティブ（天気保険）など興味深い内容を現役アナウンサーの素晴らしい声とテンポでお話しいただきました。

講演に続いて行われた意見交換会では、地域の現況や今後の購買・資源状況について意見が交わされました。都府県側からは、「初妊牛価格高騰により組合間幹旋や自家育成牛の推進により後継牛確保を進めてきたものの、高齢農家を中心に買い控えが起こり、空き牛舎も増加している。一方で、導入支援事業や、F1 スモール・廃用牛の高値安定から特に今年に入り初妊牛を更新する傾向も見られ、F1、判別腹を中心に一定の購買導入は続く」との見通しが報告されました。これに対して北海道からは、「地域差はあるもののF1、判別腹が増えてきているとの報告とともに、育成牧場の新設や判別精液

による自家保有頭数の増加に伴い、全体の販売頭数についても増加が見込める」との情報が提供されました。その他、今後の夏季購買の見通しや、預託から購買導入へシフトすると予想される価格の目安など、安定した初妊牛の供給・確保を意識して活発な質疑応答が交わされました。

会員の皆様より多数のご出席をいただき、短い時間ではありましたが有意義な会議となりました。全酪連としてもこのような機会を通じてご意見を頂戴しながら、優良な搾乳後継牛の確保に努めてまいります。(T.H)



▲ 意見交換会の様子

酪農家経営管理支援システム(DMSシステム)

Dairy-farm Management Support System

SaaS

会計ソフト『e酪農経営』がインターネット上で使用できるようになり、
情報管理やQ&Aの効率が飛躍的に向上しました！

ぜひ、ご体験ください！

一歩先ゆく経営を。



未来を予測し対策を。

※全酪連酪農経営シミュレータ 操作画面

DMSシステムでは ①経営診断、②中期経営シミュレーション、③月次決算の支援を行っています。

全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 酪農生産指導室 TEL 03 (5931) 8007

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

令和元年 6月～8月

6/12

三役会議を開催(於:自由民主党)
中央委員会を開催(於:自由民主党)

- ・改正畜安法2年目の現状について、
- ・軽減税率についてを協議

自由民主党酪政会が開催され、
酪農をめぐる情勢について(改正畜安法2年目の現状について)が協議される
大槻委員長より、
「令和2年度酪農政策・予算確保に関する要請」
「日米間物品協定(TAG)に関する要請」を実施



▲ 要請する
大槻委員長



▲ 森会長の挨拶



▲ 自民党酪政会総会の様子

7/4

第25回参議院議員通常選挙が
公示される
以降21日の投開票の前日まで、
酪農の発展に理解のある候補者に対し、
応援活動を実施

8/6

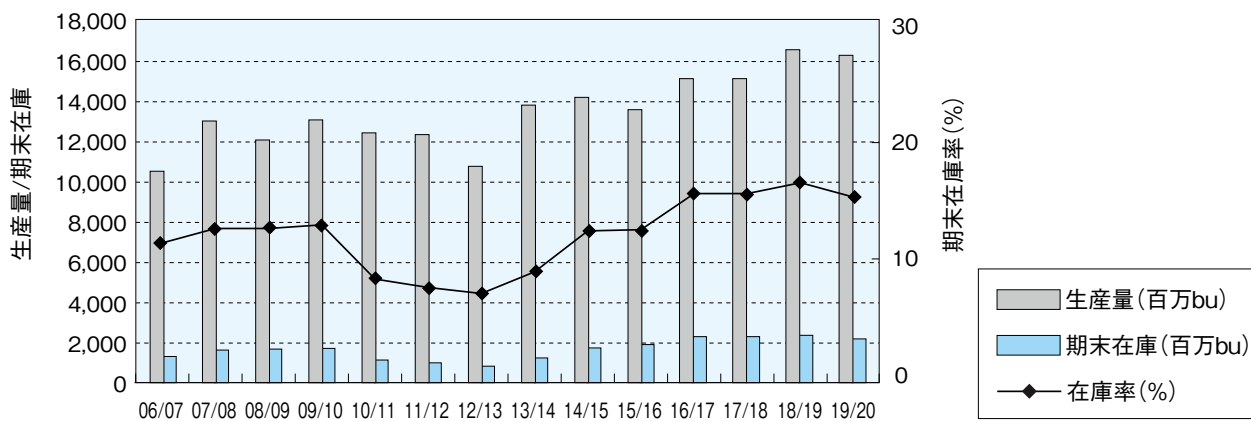
正・副委員長会議を開催
(於:酪農会館)

- ・堆肥舎等長寿命化推進事業について
- ・酪農ヘルパーをめぐる情勢についてを協議

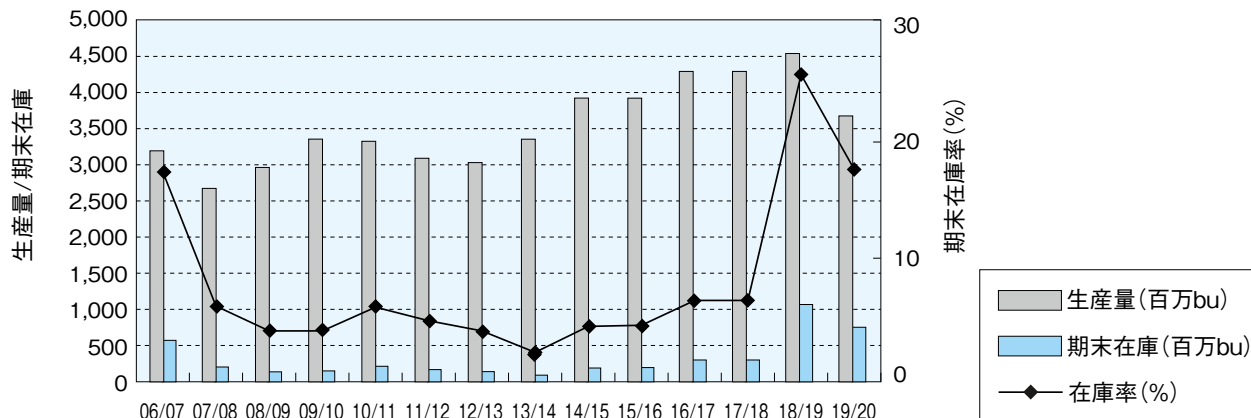


		18/19年産	19/20年産
8月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	89.1	90.0
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	176.4	169.5
	生 産 量 (ブッシェル)	165 億 9,000 万	163 億 1,100 万
	需 要 量 (ブッシェル)	142 億 3,000 万	141 億 3,000 万
	期末在庫 (ブッシェル)	23 億 6,000 万	21 億 8,100 万
	在 庫 率	16.6%	15.4%
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は、7月に入り高温乾燥予想で急騰、適度な降雨予報で反落するなど、天候相場の様相を見せていましたが、8 / 12 USDA 需給報告では市場予想を上回る上方修正となったことで一気に25¢ストップ安となりました。今後は単収を左右する天候が鍵となるため、注視していきます。		
大豆粕相場動向	米中貿易摩擦の影響とUSDA需給報告の内容から再び緩慢な需給が意識されるとともに、米国東部ベルト地域全体としては大きな天候懸念なく、米中貿易摩擦の影響とブラジルのレアル安の影響が米国大豆輸出の足かせとなっておりシカゴ定期は軟調に推移しています。中国産大豆粕については、南米大豆原料価格と大連先物価格が上昇しており価格競争力面で優位性が無くなってきており、今後の輸入大豆粕は他産地主体に動き始めるものと予想されます。		
糖 類	【一般フスマ】 現在のふすまの需給は適正に推移しているものの発生量は引き続き減少傾向にあり、配合飼料生産量の増加する10-12月に向け需給が引締まって推移することが予想されます。		
	【グルテンフィード】 異性化糖製造はGW以降稼働が5%程度落ちこみ7月以降には稼働が戻ったものの、長梅雨の影響から販売量は減少しており、グルテンフィードの配合率、使用量は高水準を維持していることから冬場に向け需給が逼迫する見込みです。		
海上運賃	7-8月の海上運賃は横ばいから上昇で推移。8月の日本・シンガポール・欧州の祝日前に取引が活発化し、特に大西洋水域の南米東岸からの荷動きが堅調となります。日本向けの海上運賃については、日本近海で複数発生した台風の影響で、荷役の遅延や本船の遅れによる混乱と船腹需給の逼迫により、海上運賃が上昇しています。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和元年 8 月

北米コンテナ船 フレート	昨年秋口から実施されているロサンゼルス／ロングビーチ港におけるピアパスチャージは、8月からわずかではありますが再度値上げが実施される見込みです。 2020年1月からのSOX（硫黄酸化物）規制に対応した適合油について、一部の船会社では、現行のC重油と比べて値差はプラス200ドル／トンとみており、これが秋口からの海上運賃にどの程度影響するか注目されています。
ビートパルプ	【米国産】 新穀の生育状況は既報の通り、冬場の歴史的寒波、作付時の冷涼で降雨の多い天候により、多くの地域で初期生育等に何らかの影響を受けているものの、日本向けの主力を担う、ミネソタ州及びノースダコタ州では他地域に比べる現時点の作柄は良好です。当地域の収穫は例年並みの8月16日前後からの開始を予定しています。 新穀相場については、主力のミネソタ州及びノースダコタ州で作柄の好転が見られたこともあり、悲観的な観測は減退しているものの、トウモロコシ相場、国内物流経費の増加、日本向け輸出に関しては低硫黄燃料使用に伴う海上運賃のアップが今後反映されることとなり、日本着ベースでの値上げは避けられない状況と言えます。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、2番刈がほぼ終了しています。一部の地域・圃場では7月下旬に不安定な天候が続いたため収穫に遅れがでました。2番刈の多くは不安定な天候と、高湿度の影響を受け、高成分のプレミアム品はおおよそ20%程度とされています。早い圃場で8月上旬から南ベースンで3番刈りの収穫が開始されます。 産地相場は、1番刈に高成分の上級品が少なかったため、2番刈への需要は高まっており、1番刈と同程度かそれ以上の価格で取引されているようです。 【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは、7月上旬までに1番刈が終了し、2番刈の収穫が進んでいます。1番刈の作柄は、収穫当初から天候に恵まれ、降雨の影響を受けたものは例年に比べて少なく良品が収穫されています。 オレゴン州中部クリスマスバレーでも、1番刈は終了しており、2番刈が始まっています。1番刈では、約20%が降雨の影響を受けており、約30%は降雨を避けたことによる刈り遅れ、残りの約50%が通常品となっています。この地域は米国内酪農家と、輸出業者双方からの引き合いも強く、特に高成分品の良品については、高値で取引されています。 【カリフォルニア州】 南部インペリアルバレーでは、5番刈が進行中です。早い圃場では6番刈りが始まっています。引き続きサウジアラビアからの需要は堅調に推移しており、さらには米中貿易摩擦の影響で弱まっていた中国の需要も、中国国内在庫も減少しているため、需要は徐々に戻ってきているようです。 【ネバダ州・ユタ州】 ネバダ州の1番刈は終了しており、現在は2番刈の収穫中です。1番刈の作柄については、約30%が降雨の被害を受けており、約30%が刈遅れ、約30%が通常品、となっています。現地価格は堅調に推移しています。 ユタ州では、6月上旬から1番刈を開始し、殆どの圃場では降雨の影響を受けることなく収穫することができました。2番刈は現在収穫のピークを迎えているところと見られます。
チモシー	【米国産】 主産地のコロンビアベースン及びエレンズバークでは1番刈を終えており、2番刈の収穫作業が開始されています。1番刈の作柄は昨年と比べ良好で、茶葉の混入の少ない綺麗な上級品が多く収穫されています。一方、中級品は例年並みの品質のようです。産地相場は上級品から低級品まで昨年同時期に比べ弱含みで推移しています。 【カナダ産】 アルバータ州南部レスブリッジ地区では7月上旬から1番刈の収穫作業が始まっており、終盤を迎えています。収穫期に一部降雨被害にあった圃場もあるようですが、例年並かそれ以上に良品が発生している模様です。アルバータ州中部クレモナ地区でも、7月下旬よりチモシーの収穫作業が始まっています。
スーダングラス	19年産のスーダンの1番刈は終盤を迎えており、早播きスーダンの2番刈の収穫作業が順次始まっているところと見られます。7月15日時点の作付面積は前年同期比96%となっており前年よりもやや低く推移しています。 これまでのところ緑目のスタンダードカラーの発生が中心となっており、茎サイズについては生育期の寒暖差の影響からややバラツキが見られ、細茎で揃った上級品の発生は例年よりも少ないようで、中級品の発生が中心となっています。 新穀相場が見えてきたのは例年よりも遅い7月中旬以降となりました。現時点の相場は、米国産チモシーに引け張られる形で、グレード問わず、昨年比弱含みでのスタートとなっています。産地相場が昨年比低迷していることから、生産者によっては2番刈の生産を行わず、圃場を起こしてしまっているところもあるようです。
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。産地インペリアルバレーでは2番刈の収穫作業が終了し、早い圃場ではすでに3番刈の収穫作業も中盤を迎えています。これまでのところ天候も良く、気温も例年より低く推移しており、湿度も例年ほど高くはないことから、2番刈および3番刈でも早期に収穫されたものは色目も良く品質面は上々の仕上がりとなっています。 日本および韓国からの需要は旺盛な状況が続いており、良品の産地相場については引き続き堅調に推移しています。
ストロー類	アニュアルライグラスストロー及びフェスクストローは6月後半から順次収穫が開始されてきましたが、これまでに3～4回の降雨があり、大きな被害が出ているようです。ペレニアルライグラスストローは収穫が始まったばかりのため、降雨による被害は少ないもののバイオマスプラント向けの需要や、他のストロー類の降雨被害による需要の集中により、産地価格は連れ高になることが予想されています。
オーツヘイ	【豪州産】 2019年産オーツの生育状況は、各産地（西豪州、東豪州および南豪州）とも適度に降雨もあり、現時点では順調な進捗のようです。しかしながら、降水量はまだ例年を下回っている状況にあり、この先の予報も各産地降雨は予想されているものの、例年よりも降水量は少ない見込みであることから引き続き産地の生育状況を注視していく必要があります。 産地相場については、昨年の早魃の影響から、引き続き豪州国内からの引き合いが強く、特に早魃が酷く、酪農生産地帯でもある東豪州において需要が旺盛な状況が続いています。



全酪

新

ニューアル

おいしい スモークチーズ

プレーン

ペッパー



おいしさにはワケがある

全国酪農業協同組合連合会

酪農部：03-5931-8008
名古屋支所：052-209-5611

札幌支所：011-241-0765
大阪支所：06-6305-4196

仙台支所：022-221-5381
福岡支所：092-432-2121

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	40~45	→	札幌管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で94.0%、累計で96.1%、苫小牧管内月計で94.6%、累計で96.6%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。8月の同地域の乳牛市場の平均価格は上がっております。9月は猛暑が落ち着いた都府県からの購買が入る可能性があり、相場はやや強含みと予測されます。初妊牛資源については、F1腹・雌雄選別腹ともに頭数は確保できるものと思われます。この地域は高能力牛が出てくる地域ですので、ご希望がございましたらお問合せください。経産牛の価格につきましても、初妊牛同様に強含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	72~80	▲	
	経産牛	50~60	▲	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	根釧管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で97.3%、累計で98.8%、中標津管内月計で100.3%、累計で100.8%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月分娩が中心となります。8月管内乳牛市場がやや堅調な動きを見せたことから、庭先購買価格も同様の動きになるものと思われます。資源状況については、例年並みの頭数は確保出来る状況となっておりますが、秋産みへとシフトする事、また道内の規模拡大や新規就農者による導入の動きも見られますので、相場が急騰すること考えられます。お早めのご注文をお願いします。
	初妊牛	77~87	▲	
	経産牛	50~60	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	42~52	→	帯広管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で101.1%、累計で103.0%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月分娩の腹が中心となります。これまで継続して初妊牛購買を行っていた道内外のメガ・ギガファームや、猛暑が落ち着いた都府県からの初妊牛購買が入ることが予想され、相場はやや強含みで動くものと思われます。初妊牛資源については、F1腹・雌雄選別腹のどちらも頭数は確保できるものと思われます。搾乳牛頭数の確保を目的に経産牛を求める動きも出てきております。従いまして、今後の経産牛の相場についても、初妊牛同様に強含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	77~87	▲	
	経産牛	55~62	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	43~53	→	道北管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.0%、累計で98.4%、北見管内では月計で99.5%、累計で101.2%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月前半分娩が中心となります。直近の乳牛市場では秋季初めの分娩が中心になったことから導入意欲は回復し始めております。価格については、F1腹・雌雄選別腹はやや強含みに推移すると思われます。資源状況については、例年並みの頭数で推移すると思われますが、腹別に見ると、F1腹よりも雌雄選別腹の方が確保しやすい状況となっております。
	初妊牛	72~82	▲	
	経産牛	48~55	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	43~53	→	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は99.6%、累計で100.8%の実績となっております。7月下旬から8月上旬まで続いた猛暑の影響を受け、一時、道内の乳量が落ち込みました。9月の初妊牛動向といたしまして、11月~12月分娩が中心となりますが、購買意欲の回復が見られ、相場はやや強含みで動くものと予想されます。資源状況については、雌雄選別腹の利用により育成牛の頭数が増加傾向であり、例年通り確保出来るものと思われます。引き続き、相場動向に注視しながら、庭先購買中心にご希望の牛を揃えていきたいと思っておりますので、導入希望がございましたら、お早目のご注文をお願いします。
	初妊牛	77~87	▲	
	経産牛	50~60	→	

お詫びと訂正

本紙8月号(No.647)表紙に掲載しました記事のタイトル表記に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

<誤> 酪農とのかけはし／増田一真さん → <正> 若手後継者の本音／増田一真さん

今月の表紙



今月の表紙は「第10回酪農いきいきフォトコンテスト」(第48回全国大会にて開催)で応募頂いた作品「僕にもちょうだい!」(秋田県 佐藤博久氏 撮影)です。

編集後記

- 早く暑さから開放され、過ごしやすい日が待ち遠しいです。
- いよいよ消費税が10%に増税されるまでの残り1ヶ月。対応について万全なご準備を!
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和元年9月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 9月号 No.648

● 編集・発行人 戸辺誠司

● 発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

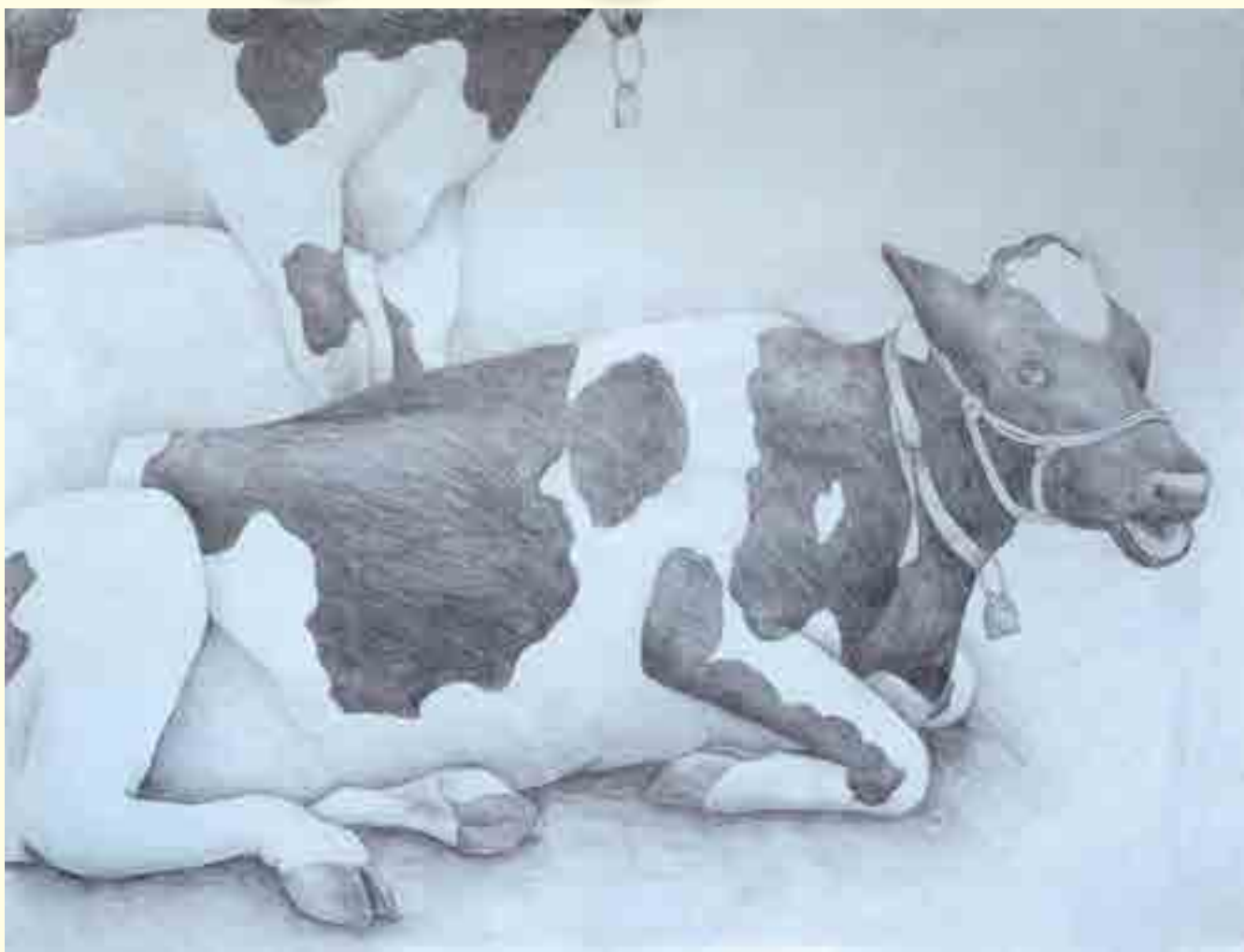
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



放牧

吉祥女子中学校(関甲信)3年 山口 紗奈

今月の入賞作品は…

吉祥女子中学校(関甲信)3年の山口 紗奈さんの作品です。

「放牧」からは、絵を描く楽しみを感じます。牛さんの体を良く観察して鉛筆で丹念に描けましたね。体の骨格や濃淡、明暗などを意識して根気よく描くことで、牛さんが立体的に表現されています。今後の更なる成長が楽しみです。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第46回らくのうこどもギャラリー」で全国683点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議